

カウントされない生/命

体外受精等の生殖補助技術は産ませる技術である一方、死産児や人工妊娠中絶児を生み出しています。また、目に見えにくい貧困層の子どもを生み出しているのも事実です。前者は生殖における身体の担い手である女性に、また、後者は多くの場合、母親の貧困に起因しています。本シンポジウムでは、四つの視点から生殖子育てにおいて女性たちがどのように翻弄されているのか問題提起し、議論したいと思います。

- 日 時 2016 年 7 月 16 日(土) 13:30~16:30 (13:00 開場)
■ 会 場 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス B3 棟 119 講義室
■ 参加費 500 円 (大阪府立大学 学生・教職員は無料)

◇ 報告タイトルと報告者 ◇

- [1] 「望んだ妊娠から消される子ども
(中期中絶から死産児へ)」
山本由美子 (大阪府立大学講師)
- [2] 「不妊治療の現場から消えていく受精卵」
居永正宏 (大阪府立大学非常勤研究員)
- [3] 「みえない母子の貧困と孤立」
梅田直美 (奈良県立大学講師)
- [4] 「売買される卵子・妊娠出産」
浅井美智子 (大阪府立大学教授、女性学研究センター)

申込方法

①氏名(ふりがな)、②住所、③電話番号を記して、
Eメールまたは FAX でお申し込みください。

申込先

大阪府立大学女性学研究センター
Eメール: joseigaku@gmail.com
FAX: 072-254-9947

* 当日参加も可能ですが、資料準備の都合上、できるだけ
事前にお申し込みください。

* お申し込みの際の個人情報、本講座の事務連絡、
統計資料等の作成および本学公開講座等の案内
以外に、一切使用いたしません。

問合せ先

大阪府立大学女性学研究センター
TEL: 072-254-9948
(土日・祝日を除く、14:00~17:00)

会場までのアクセス

大阪府立大学中百舌鳥キャンパス
〒599-8531 堺市中区学園町 1-1

- 南海高野線「白鷺」駅下車、南西へ約 500m
- 南海高野線「中百舌鳥」駅下車、南東へ約 1,000m
- 地下鉄御堂筋線「なかもず」駅(5号出口)から
南東へ約 1,000m

